

週刊新社会

3月21日



2017年号外
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 150円 41円
http://www.sinsyakai.or.jp/
発行所：新社会党 E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

権力の私物化とそこに群がる自称愛国者たち—森友事件！安倍も維新も総退場だ

予算審査の中で—長南博邦予算委員に聞く どう変わるのか今後1年が勝負どころ

アベノミクスがからっきしだということは野田市の歳入を見てもわかる。前号で報告したように地方消費税が7.2%、約1億8千万円の減となっている。安倍総理を好意的に映し出し、「やってる感」の印象操作にいつまでもだまされては自治体財政もだめになる。

鈴木市長初の当初予算は、小学校の学級事務支援員の配置で特色を出したにとどまり、ほとんど前市長の予算編成そのままであった。

しかし、新年度を通して予算を見直し、次年度はそのカラーを出す」と表明している。しがらみがまとわりつく各種補助金も見直すと表明した。これらの見直しの司令塔になるのが新設される市政調整室と思われ、室長（部長職）や担当課長などに誰がつくのか関心が高まる。

なお、市政推進室は市政推進担当が室長と課長など4人、秘書担当が課長など2人、そして自動車運転手2人の配置が予定されている。管理職を増やすなら、野田市に不釣り合いな局長職は廃止しなければなるまい。

何しろ自由に使える一般財源が乏しく、東武鉄道の連続立体交差事業は事業の95%を合併特例債で賄っているが、残りの5%も県からの借金だ。そして今後の施設の老朽化に対して市の貯金の財政調整基金を積み増さなくてはならない。

このような財政状況で、老朽化した川間公民館しかしばらく建設しなかったが、市長選公約の子どもと高齢者の複合施設の建設に踏み出す。おそらく次の市長選挙前の完成を目指すだろう。財源確保は「ビルド&スクラップ」によるというからには何を廃止させるのかが今後の争点として浮き上がる。しかも100億円近い新清掃工場建設がほぼ同時に始まる。議会も現状を見極めて政策提言を行い、市の事業の総点検を行う力量が必要となる。

夢から覚めるときびしい現実が



ハクモクレンが咲き出した

野田市の行政運営の手引きとなっているものに「行政改革大綱」がある。必ずしもコストカットのみではないが、その多くは人件費のカットにつながる。社会趨勢がコストカットとその受け皿の民営化とセットになっている中、野田市もその例外ではない。前市長は保育所の指定管理者に株式会社を導入したのは先進的と誇って

いたくらいだ。しかし、そのツケが保育士「不足」による待機児童の大量出現や、学童保育所の入所状況のアンバランスとなって現れている。進み続ける雇用の劣化が個人消費の低迷と少子化に拍車をかけている。野田市の場合は長い間続いた企業城下町システムの崩壊が町のポテンシャルの低下に拍車をかけている。東京直結鉄道ができれば問題が解決するかのような15年の夢から覚めると、現状から何ができるのか、どう協力し合うのかが突きつけられていた。

学校と地域が頑張れるうちに 調整区域のまちづくりを

今回おさなみ議員は調整区域の人口減問題とそれに伴う学校問題を取り上げた。

以前からわかっていたとはいえ、学区内がほぼ調整区域や調整区域で単発の住宅開発が行われたところは人口減と高齢化が進展し、その影響を受けて小学校の存続が危ぶまれる状態に追い込まれようとしている。

福田第二小学校はその典型で、すでに 15 年前から小規模特認校として学区外の児童を受けて入れており、約 30%は学区外からの児童となっており、それでも昨年 4 月から 2 年生と 3 年生は学年を越えて一クラスとなっている（複式学級）。

複式学級となっても別々の授業

が必要な場合は小規模特認校に特別配置した教員が対応するので問

自然共生ファーム雇用で所得保障の道を

現在教育部門で地域のシンボルでもある小学校の存続に努力しているが、野田市ではそのような地域での人口対策はないと言っていると言っているのではない。

何しろ答弁には少子高齢化のため仕方がないという意識がにじむ。少子高齢化は原因ではない。結果なのだ。原因は農業維持もできる雇用の不足なのだ。農業が存続できなければ自然環境の維持どころではない。環境の担い手が存在してこそなのだから。

雇用や開発による人口維持がむずかしければ農業を軸として地域

題はないとがんばっている。

ただ入学案内の説明会で通学バスがあればとの要望もあり、入学児童が増えるかもしれないが、現在保護者の送迎での通学に限っているとの答弁にとどまった。

の維持を計らざるを得ない。その点でコウノトリの飼育で環境行政を打ち上げて、それとの連携が弱く、減農薬の黒酢米はコウノトリとつながらない。

農業は手間がかかり、集落の助け合いの下で進められる。その条件を無視して儲かる農業など空想だが、既成概念を超える情熱は必要だ。

思い切って市が設立した野田自然共生ファームの雇用を増やして、そこで得る賃金で農業を兼業化できないか。当然自然共生ファームの経営拡大が前提だが。

訂正と
お詫び

前号記事は小学校と中学校工事を間違え 今度は小学校エアコン工事

前号の中学校のエアコン入札情報記事に大きな間違いがありました。本来小学校のエアコン入札を取り上げるところを勘違いしてしまいました。前号発行時には小学校の入札は終わっていません（16 日開札）。ご迷惑をおかけした関係者と読者の皆さんにお詫びします。

小学校の入札情報は表 1 の通りです。全 20 校を 2 校ずつまとめて入札にかけています。参加可能な地域要件は市内だけでなく近隣市にも広がっていますが、これまでもそうであり、競争性が高まる

との期待はできません。また、今議会に議案として提出されないと思われます。

小学校のエアコン工事は新年度に行われるため、実際に使えるのは来年の夏から。中学校は今年の夏から。

表 1 小学校入札入札情報

No	件名
1	中央小学校及び清水台小学校空調設備設置工事
2	南部小学校及びみずき小学校空調設備設置工事
3	岩木小学校及び尾崎小学校空調設備設置工事
4	川間小学校及び七光台小学校空調設備設置工事
5	二ツ塚小学校及び山崎小学校空調設備設置工事
6	木間ヶ瀬小学校及び関宿中央小学校空調設備設置工事
7	東部小学校及び柳沢小学校空調設備設置工事
8	二川小学校及び関宿小学校空調設備設置工事
9	福田第一小学校及び福田第二小学校空調設備設置工事
10	宮崎小学校及び北部小学校空調設備設置工事

公契約条例適用

参加申請期限 3 月 7 日、開札日 3 月 16 日

総合評定値 700 点以上

地域要件

市内業者又は準市内業者、柏市・流山市・松戸市・我孫子市に本店がある業者